

坂井市版

居場所の包括連携による

笑顔で

暮らせるまちづくり



坂井市



社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会  
総務課 主査 水上真裕

# 団体概要・事業概要

団体名	社会福祉法人坂井市社会福祉協議会
代表者名	会長 阿古江 唯説
本部所在地	福井県坂井市坂井町下新庄 18-3-1
組織構成	総務課、地域福祉課、在宅福祉課

職員数 常勤 73名、非常勤 61名 計134名

## 地域の情報

人口:90,217人

世帯数:32,534世帯

面積:209.67km<sup>2</sup>

高齢化率:28.7%

(2021.9.1現在)

- 行政区:442区
- 日常生活圏域:4圏域
- コミュニティセンター:23か所
- 地区ふくしの会:36か所

## 基本目標:みんなが主役 ふだんのくらしのしあわせづくり

### 長期アウトカム

- 地域の中での社会的孤立が解消される
- 地域コミュニティが活性化する
- 住民の地域への愛着が向上する

地域の中で参加や活躍できる機会が多くできる

### 【短期アウトカム】

- 地域への関心が進む
- 団体の活動が活性化する
- 団体間ネットワークが強固になる
- 地域内に参加できる場所が増える

自分の所属できる居場所が地域内にできる

### 【アウトプット】

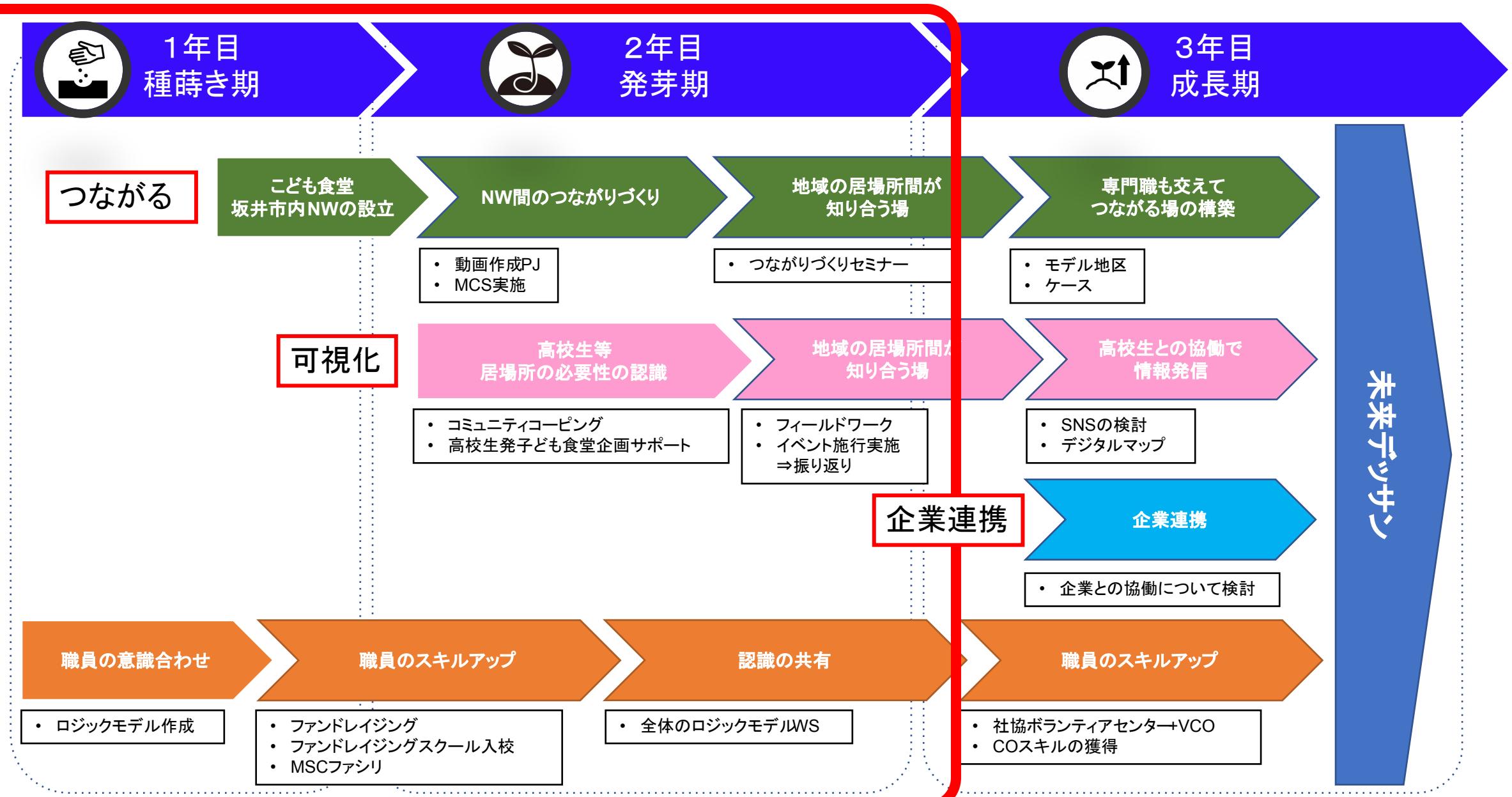
- 活動団体の幅が広がる
- 新たな居場所が増加する
- 分野横断の居場所ができる
- ネットワークが強化される
- 無関心層が地域課題に興味を持つ
- 福祉関心者が増加する
- 必要な資源にアクセスしやすくなる
- 住民の福祉教育につながる

地域福祉に興味を持つ人(企業)が増える

### 【活動】

- 居場所サミット(つながりづくりセミナー)
- 子ども食堂連絡会
- 地域資源マップの作製
- 地域企業との勉強会
- 職員のスキルアップ  
(コーディネーション、ファンドレイジング)

# この2年間の取り組み



## 成果や手応え



## 1年目「種蒔き期」

- 市内子ども食堂のネットワーク化
    - ・ 活動者の知り合う機会
    - ・ 活動の価値の共有
    - ・ 地域の現状の共有
  - 知り合うことで、つながりへの意識向上  
  - バックアップ職員の強化
    - ・ 共通のベクトルづくり(ロジックモデル)
    - ・ 団体支援(ファンドレイジング、MSC)
  - 縦割りから横断の意識情勢

2021年度



- 知らないことで一步踏み出せない
  - 地縁関係が強いが知り合う機会が限られている
  - 業務の縦割りの弊害

2022年度



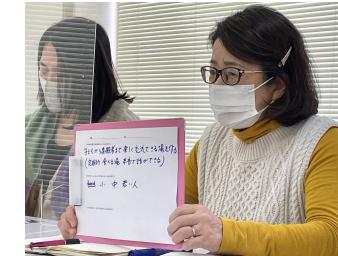
- 知り合うことが活動のモチベーション
  - 地縁になじまない人にどうアプローチするか
  - 属性を超えたつながりが弱い

- 学生を交えた取り組み
  - 学生の学びの場
  - 多世代のつながりづくり
- 興味関心の波及効果
- モデル終了後を見据えた取り組み
  - 組織としての戦略性の学び

- 知り合うこと、つながりへの意識向上
- 取り組みの視点の多様化

- 属性を超えた団体のネットワーク化
    - 異なる分野と知り合う機会
    - 活動の価値の共有
    - 地域の現状の共有

## 2年目「発芽期」



2024年度



### 3年目「成長期」

## 実践の手応え

## 価値観



## ストーリー・感情



## 行動

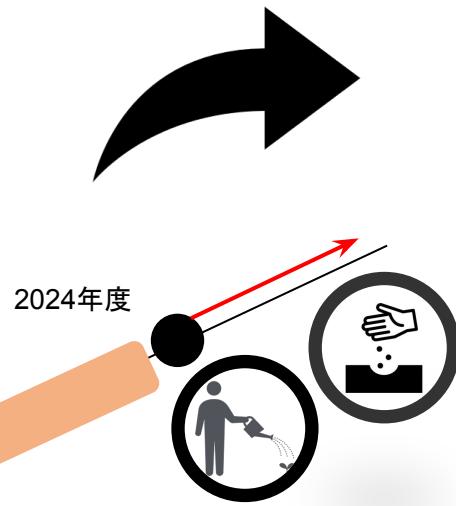
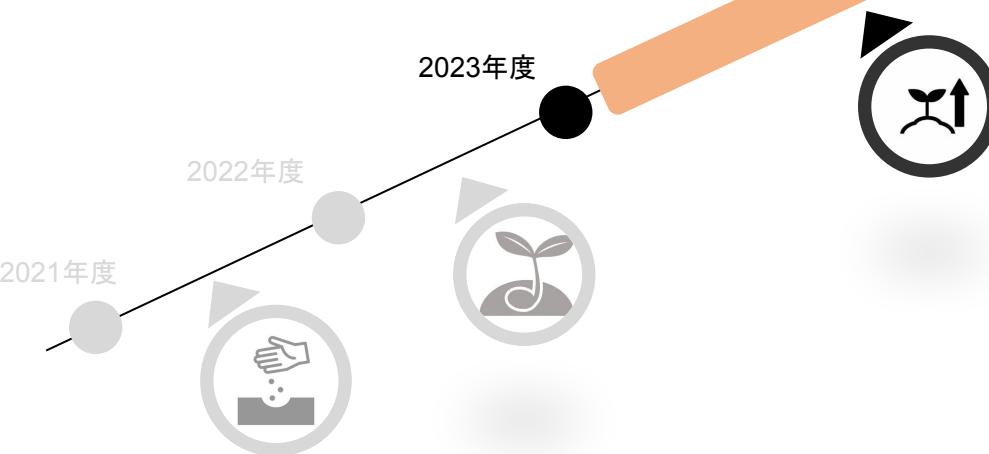


価値観・ストーリーは  
人びとを動かすパワー  
となる

# 展望

## 3年目「成長期」

- I. 重層的支援体制整備事業の推進
- II. ボランティアセンターの機能拡充
- III. 協働先の拡充
- IV. バックアップする職員のスキルアップ



- 身近な地域での資源づくり  
(第2層CSWの地域支援体制)
- 主体的に参画できる場づくり  
(多様なロールモデルづくり)
- 言葉合わせの機会づくり  
(専門職と地域住民が繋がり・学び合う)
- 関係性の構築  
(活動や思いのエピソードの収集)

